

## 第Ⅶ章 総 括

### 1 遺 構

#### A 建 物

3ヶ年の調査で検出された遺構の中で、古代の建物跡の可能性のあるものにH17－1Tで検出されたSB1がある。金堂の北に位置することや、柱穴列が等間隔で並ぶことから講堂、僧坊等、国分寺に関連する建物跡とも考えられる。但し、部分的な調査のため規模や構造は明らかにし得ない。また、周辺で検出されたSX02～SX04については、第Ⅳ章で述べたように近世以降の所産と考えられる。なお、金堂から約15m北西の地点に、50cm程の石が5個並んでいる<sup>1)</sup>。位置から考えて何らかの施設が存在した可能性も考えられる。

#### B 区 画 施 設

多くの場合、伽藍地と付属院地の間には何らかの区画施設がある。区画施設には、築地、土塁、溝、掘立柱塀、板塀、垣、柵列等があり〔山中ほか2003〕、遠江国分寺では土塁、能登国分寺では雨落ち溝を伴う築地、武蔵国分寺では溝等が検出されている。佐渡国分寺跡では、これまで寺の東側を中心に20箇所余りの試掘坑を設定したが、区画施設は検出し得なかった<sup>2)</sup>。耕作等により削平された可能性や、遺構面まで掘り下げていない可能性もあるが、区画施設が柵列等の検出し難い構造であった可能性もあろう。今後の調査に際しては、一定幅以上（6m程度）の試掘坑を設定することが、区画施設の把握に有効と考える。

### 2 寺 域

#### A 寺域の概念

国分寺の規模は一般的に2町四方とされてきた〔石田1964〕が、各地の調査例では必ずしも当てはまらない場合がある<sup>3)</sup>。また、寺院の領域の捉え方についても、所謂伽藍のみならず寺に付属する施設も含めて様々な見解がある〔石田1966・坂詰1979・上原1986・須田1994・斎藤1996〕。ここでは、便宜的に伽藍地と付属院地を区画する施設をもって「寺域」と呼ぶ。これは、必ずしも近年の研究成果を反映したものとは言い難いが、現状では区画された空間を把握することが必要と考えるからである。

#### B 四 至

過去の調査成果等をもとに想定される寺の四至について述べる。

---

1) 山本肇氏の教示による。

2) 調査時には、SD01を区画溝と考えていたが、第Ⅳ章で述べたようにこれは新しいものとする。

3) 河内国分寺（東西2町南北2.5町）や不整形になる武蔵国分寺などがある〔坪井1985〕。また、陸奥国分寺など町単位で割切れない寺域を持つものもある。

東 『国分寺の研究』〔今井ほか 1938〕では、金堂中心から 60 間東に土塁状の高まりがあると述べているが、現在この位置には薬師如来像を安置する収蔵庫があり、土塁を確認することは出来ない。一方、遺物出土状況を見ると、伽藍中軸線から 130m 付近（H8－B 区及び H17－7T.SD01）で軒瓦が集中して出土する。また、H16－追加 5T や B 区の東にある墓地においても瓦の散布が認められる（別表）。このことから、付近に瓦葺構造物が存在した可能性も考えられる。但し、それらが建物であったのか、或いは塀等の区画施設であったのかは判断し得ない。

もともと、離れた位置（M19－25 と I2－21）で出土した軒平瓦（51）が接合することや、B 区の出土状況（第 11 図）からは、これらの遺物は纏めて廃棄された可能性も否定できない。



第 11 図 B 区遺物出土状況

西 金堂中心から 30 間西に土塁があるが、これは池造成時に掘り上げた土を盛り上げたものとされる〔今井ほか 1938〕。

一方、金堂中心から 60 間西の地点では、僅かに地形が落ち込むことや、「回廊西側松林中に遺瓦の比較的多数埋蔵される」〔今井ほか 1938〕ことから、この付近が西端である可能性も考えられる。

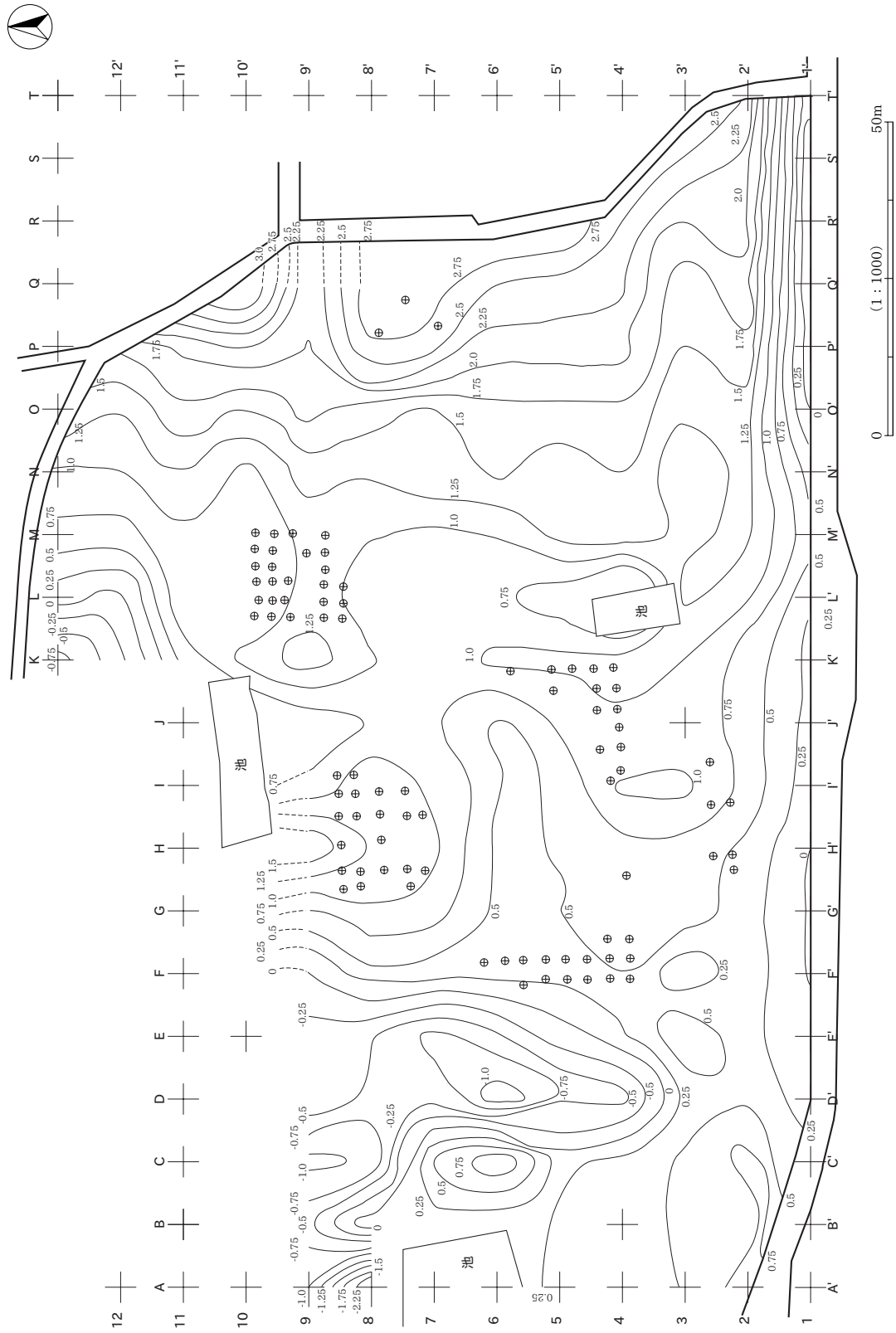
南 南大門の前を県道が走り、その南は谷となっている。そのため南大門周辺が南端である可能性が高い考えられる。但し、南大門では確認された礎石が少なく、平成 13 年の調査では版築の跡は検出されていない。存否を含めた検討が必要と考える。

北 前述のとおり、耕作等による削平を受けているため遺構検出には困難が伴うと考えられる。但し、南大門より北へ約 150m 付近で地形が落ち込むため、これより北に建物等の存在を想定し難い。

以上の事から、南北 1～1.5 町、東西 2～3 町前後の寺域が想定されよう。

また、史跡整備時の造成工事により、原地形は若干影響を受けている。参考として、整備前の地形図を第 12 図に示した。これを見ると、回廊の東西、及び南大門周辺に地形の落ち込みがある。このことが何を意味するのか現状では判断し得ないが、寺域が非常に小さく纏まっていた可能性も検討する価値があるように思われる。

無論、現状ではこれは推測に過ぎず、今後、範囲確認のための調査によって検証する必要がある。



第12図 整備前の地形

## 3 屋 瓦

### A 出 土 傾 向

これまでの調査における軒瓦の出土数及び比率を別表に示した。また、一定量（20点以上）の軒瓦が出土した南大門、金堂北、瑠璃堂北、瑠璃堂南の4地点における各型式の出土比率を第13図に示した。軒丸瓦では3型式の出土が最も多く、全体の約25%を占める。特に東側（瑠璃堂北・瑠璃堂南）では約40%と非常に高い値を示す。一方、金堂北側では3型式の比率はさほど高くない。

軒平瓦はやや傾向が掴み難いが、東側では210、213、215型式が多く201型式も一定量出土する。金堂北側では212型式が最も多く、201型式は出土しない等の違いが見られる。

### B 組み合わせと年代

I期（創建期） 出土量の最も多い3型式、文様からこれに先行すると考えられる1・2型式、中房が大きく整った文様を持つ4型式、1型式と同じ製作技法の5型式が創建期<sup>1)</sup>の瓦と考えられよう。

軒平瓦は、経ヶ峰窯跡出土品から209、210型式が創建期の軒丸瓦に伴うと考えられ、文様から209A→209B→209C→210型式への変遷が想定される。また、比較的文様が整っている201、203型式も創建期の瓦と考えられる。これらの瓦は経ヶ峰窯跡で生産されたものであるが、その年代は不明である。但し、II期の瓦と製作技法に大きな違いがないことから、時間差を多く見積もることは適当でないと考えられる。明確な根拠を提示し得ないが、概ね9世紀前半代と考えたい。

II期 軒丸瓦は瓦当径が小さく薄くなる13・15、17型式等がある。蓮弁に崩れが見られ、6葉が多い。他に系譜を追えないもの（22・24型式）もある。

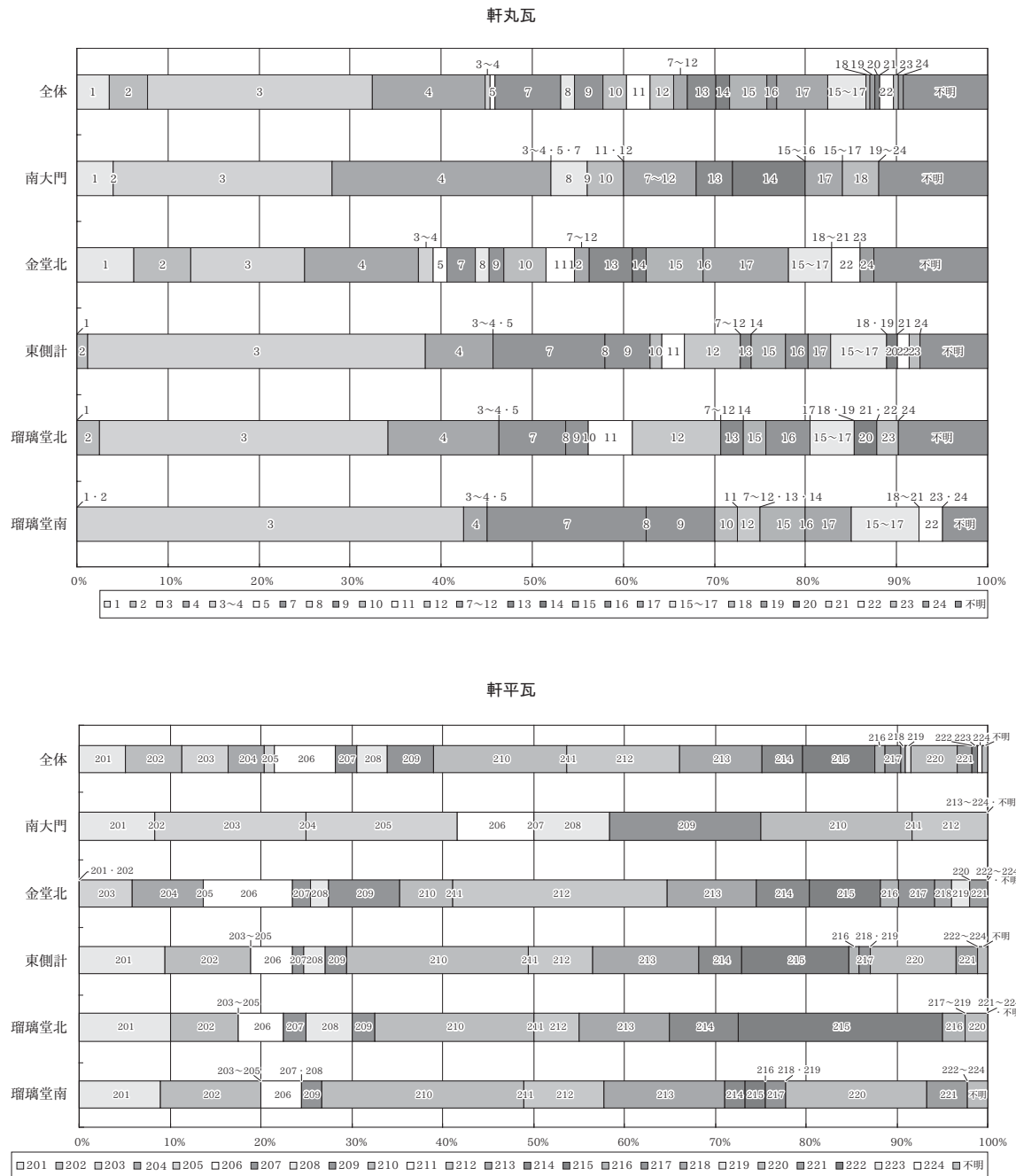
軒平瓦は202、212、213、215型式等がある。格子及び平行叩きのものは小泊窯跡群、粗い縄叩きのものは、経ヶ峰窯跡の製品である。小泊窯跡群で出土する須恵器から、概ね9世紀後半～10世紀初頭のものと考えられる。

上記の組み合わせは、さらに細分出来ると考えられるが、現時点ではなし得なかった。

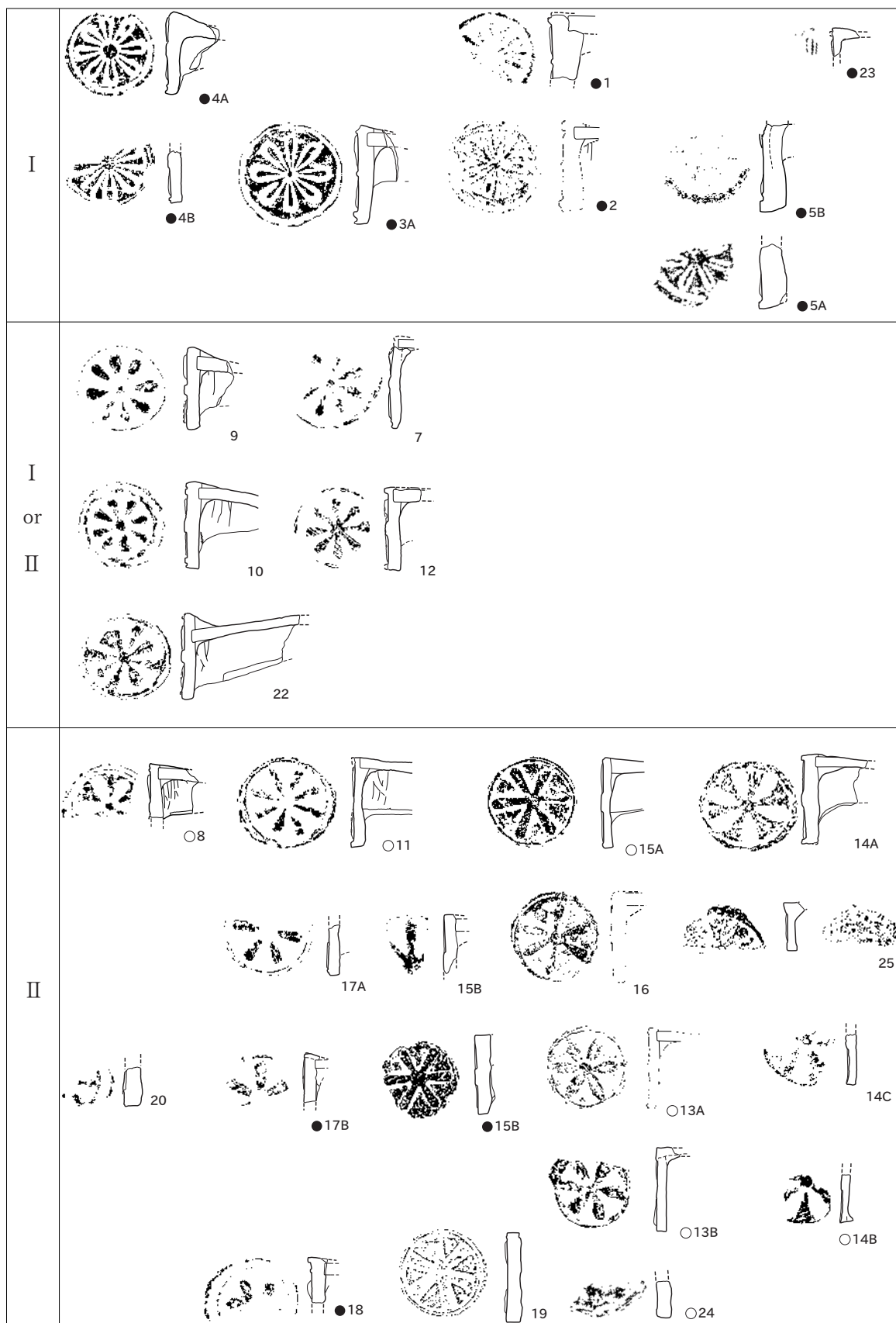
### C 系 譜

佐渡国分寺跡の瓦については、「蓮華文を単純化したもの」[森ほか1990]、「畿内や北陸には類例がない」[春日2006]とされることが多く、朝鮮半島の瓦との類似性も指摘される[山本1987]。系譜については、上野国分寺、福島県郡山市清水台（虎丸長者屋敷）遺跡、城輪柵等に類似する瓦が見られるため、東山道や東北南部との関連が想定される[春日2006]。一方、一本作りの軒丸瓦は戸津窯跡群で生産が確認され、13B型式のように瓦当の外側に丸瓦を接合する軒丸瓦は、石川県国分廃寺で出土している。越後、佐渡は須恵器生産においても畿内系と東海系という複数の技術系譜が混在することから、瓦生産にあっても同様であった可能性があろう。朝鮮半島との関連については、中房の分割線や顎面施文、包み込みによる軒平瓦が見られないことから、直接の技術伝播は想定し難い。朝鮮系と考えられる瓦（蓮弁に沈線が入る13型式等）は、朝鮮半島から地方に伝えられたものが、そこから二次的に他の地方に伝えられた[亀田2006]可能性が高いと考えられる。

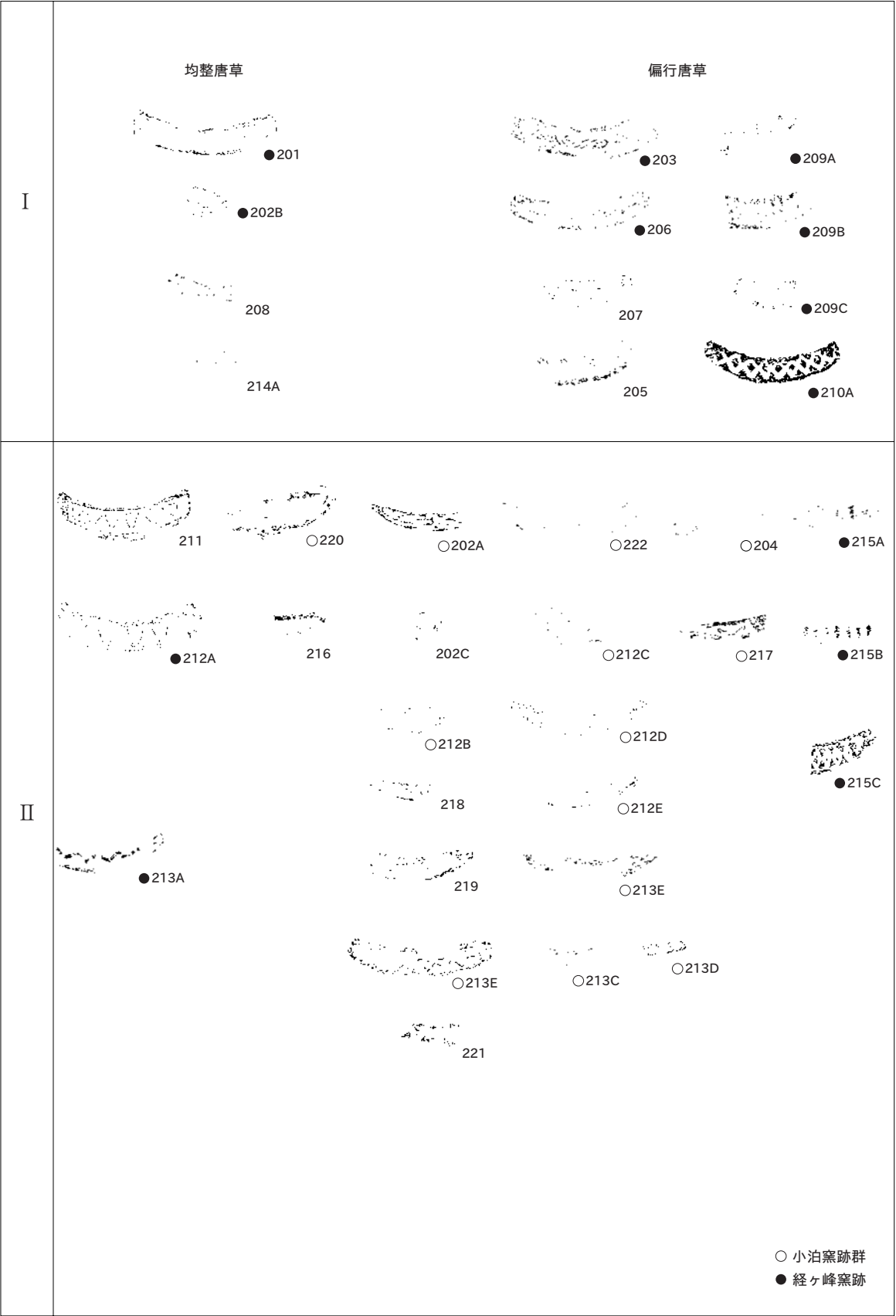
1) ここでは瓦葺伽藍整が整備された時期という意味で用いる。



第13図 軒瓦各型式の出土比率（個体識別法による）



第14図 軒丸瓦の変遷



第 15 図 軒平瓦の変遷

## 要 約

- 1 佐渡国分寺跡は、新潟県佐渡市国分寺 287-1 ほかにある。
- 2 遺跡は島南部の小佐渡丘陵から西に派生する尾根末端の台地上に位置する。標高は約 55m である。
- 3 遺跡は昭和 2 (1927) 年に発見され、昭和 4 (1929) 年に国史跡に指定された。昭和 28 (1953) 年に測量調査、昭和 46～48 (1971～1973) 年に史跡整備が行われている。平成 10～14 (1998～2002) 年にかけて道路拡幅に伴う調査が実施され、南大門の南西から石敷遺構が検出された。
- 4 調査は、史跡再整備計画策定に先立ち寺の範囲や関連施設の有無を把握することを目的として、平成 15～17 (2003～2005) 年にかけて行った。
- 5 金堂北端礎石から北へ約 25m の地点で、3.5m 間隔で南北に並ぶ柱穴列を検出した。何らかの建物とも考えられるが、部分的な調査のため詳細は不明である。他に配石遺構 (SX02～04) を検出したが、これは近世の絵図に描かれている建物に伴うものと考えられた。付近は、近世の耕作等により地形が改変されており、遺構の一部は削平されている可能性がある。
- 6 塔東側では、南北へ約 25m 程続く溝を検出した。寺を区画する溝の可能性も検討したが、層位及び遺物出土状況から新しいものと考えられる。
- 7 出土した遺物の大半は古代の瓦で、他に古代から近世にかけての土器がある。
- 8 出土した軒瓦を、文様の違いをもとに軒丸瓦 24 型式 35 種、軒平瓦 24 型式 40 種に分類した。
- 9 丸瓦、平瓦は種別や製作技法による分類を行った。
- 10 出土する瓦は、現国分寺の東にある経ヶ峰窯跡と南西約 11km にある小泊窯跡群で生産された。これらの窯跡から出土した資料を提示し、製作技法等により両者を識別出来ることを明らかにした。
- 11 小泊窯跡群の瓦は、相伴する須恵器から 9 世紀後半～10 世紀初めに生産されたことがわかる。経ヶ峰窯跡の瓦は、小泊窯跡群の瓦より古い様相を呈するが生産年代は不明である。但し、両者の製作技法に大きな違いが見られないことから、比較的近接した時期の所産と考えられる。
- 12 他地域の瓦と比較検討を行い、東北南部の瓦との類似性や渡来系工人の関与を指摘した。但し、北陸地方などの影響も見られるため、技術系譜は多様であった可能性がある。
- 13 過去の調査成果を検討し、想定される寺の範囲を示した。



## 引用・参考文献

- 相沢 央 2005 「北の辺境・佐渡国の特質」『古代の越後・佐渡』環日本海歴史民俗学叢書12 高志書院
- 足利健亮 1971 「国府と郡家」『佐渡の歴史地理』古今書院
- 足立 康 1936 「軒瓦の名称に就いて」『考古学雑誌』第26巻12号 日本考古学会
- 甘粕 健 1986 「群集墳の展開」『新潟県史』通史編1 原始・古代
- 石田茂作 1930 『古瓦図鑑』大塚巧藝社
- 石田茂作 1972 『東大寺と国分寺』至文堂
- 五十川伸矢 1981 「古代瓦生産の復原」『考古学メモワール1980』學生社
- 五十川伸矢・宇野隆夫<sup>ほか</sup> 1982 『丹波周山窯址』京都大学考古学研究室
- 今井滋二 1930 「佐渡国分寺址の研究」『日本研究』第1冊 早稲田大学日本学会
- 今井滋二・源豊宗 1938 「佐渡国分寺」『国分寺の研究』下巻 考古学研究会
- 今井滋二・田中圭一 1968 「佐渡国府の諸問題」『越佐研究』第26号 新潟県人文研究会
- 今井滋二・田中圭一・山本仁<sup>ほか</sup> 1968 『佐渡国府緊急発掘調査報告書（若宮遺跡）』Ⅰ 真野町教育委員会
- 今井滋二・田中圭一・山本仁<sup>ほか</sup> 1969 『佐渡国府緊急発掘調査報告書（若宮遺跡）』Ⅱ 真野町教育委員会
- 上原真人 1984 「瓦の見方について」『富山市考古資料館紀要』第3号 富山市考古資料館
- 上原真人 1986 「仏教」『岩波講座日本考古学4 集落と祭祀』岩波書店
- 上原真人 1990 「平瓦製作技法の変遷」『今里幾次先生古希記念 播磨考古学論叢』今里幾次先生古希記念論集刊行会
- 上原真人 1997 『瓦を読む』講談社
- 宇野隆夫<sup>ほか</sup> 1989 『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
- 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究－北陸を舞台として－』桂書房
- 浦林亮次 1960 「瓦の歴史－法隆寺遺瓦群における技術史の一試論－」『建築史研究』第28号 建築史研究会
- 大川 清 1983 『古代窯業の実験研究（1）』日本窯業史研究所
- 大川 清・戸田有二 1984 「福島県針生・原田瓦窯跡」『考古学研究室発掘調査報告書』甲種第3冊 国士舘大学考古学研究室
- 大川 清 1985 『日本の古代瓦窯（増補版）』雄山閣
- 大川 清 1996 『古代のかわら』日本窯業史研究所
- 大脇 潔 1991 「研究ノート 丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所
- 梶原義実 2003 「造瓦組織の復原と瓦当文－東海地方の国分寺から－」『史林』第86巻第3号 史学研究会
- 梶原義実 2005a 「国分寺系瓦の広域展開－日本海沿岸地域を中心に－」『名古屋大学文学部研究論集』152 名古屋大学文学部
- 梶原義実 2005b 「国分寺瓦屋と瓦陶兼業窯」『日本考古学』第19号 日本考古学協会
- 春日真実 2002a 「佐渡の古代土器」『佐渡歴史民俗叢書Ⅱ まほろばの時代』両津市郷土博物館
- 春日真実 2002b 「佐渡における11世紀から16世紀の土師器編年」『新潟考古学談話会会報』第26号 新潟考古学談話会
- 春日真実 2006 「佐渡の玉作り・古墳・窯業」『日本海域歴史体系』第2巻 清文堂
- 堅木宜弘 2002a 「佐渡国分寺跡～最近の調査から～」『佐渡歴史民俗叢書Ⅱ まほろばの時代』両津市郷土博物館
- 堅木宜弘 2002b 「真野町佐渡国分寺跡の調査」『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 堅木宜弘 2006 「佐渡国分寺跡の調査について」『新潟県考古学会第18回大会 研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 亀田修一 2005 『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館
- 川村 尚 2000 「佐渡羽茂町小泊窯跡の調査」『新潟県考古学会第12回大会 研究発表会発表要旨』新潟県考古学

- 会
- 川村 尚 2002 「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- 川村 尚<sup>ほか</sup> 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』佐渡市教育委員会
- 関東古瓦研究会編 1998 『聖武天皇と国分寺－在地から見た関東国分寺の造営－』雄山閣
- 木立雅朗 2007 「瓦范についての覚書」『明日をつなぐ道－高橋美久二先生追悼文集－』京都考古刊行会
- 木村宗文 1986 「交通と運輸」『新潟県史』通史編Ⅰ 原始古代 新潟県
- 木村康裕<sup>ほか</sup> 1995 『羽茂町内遺跡確認調査報告書Ⅱ－小泊窯跡群－』羽茂町教育委員会
- 木村康裕<sup>ほか</sup> 1996 『羽茂町内遺跡確認調査報告書Ⅲ－小泊窯跡群－』羽茂町教育委員会
- 工藤雅樹 1965 「陸奥国分寺出土の宝相花文鏡瓦の制作年代について－東北地方における新羅系古瓦の出現－」『歴史考古』第13号 日本歴史考古学会
- 計良勝範・田中圭一 1969 「佐渡国平安期製鉄遺跡の考察－いわゆる「穴釜」について」『たたら研究』第15号 たたら研究会
- 国士舘大学考古学研究室 1984 「福島県針生・原田瓦窯跡」『考古学研究室発掘調査報告』
- 後藤四三九 1954 「国分寺再建勸進趣旨書発見と礎石発見の動機について」『佐渡史学会々報』第1号 佐渡史学会
- 小林行雄 1964 「屋瓦」『続古代の技術』塙書房
- 小林達雄・青木 豊 1983 『長者ヶ平』小木町教育委員会
- 斉藤 忠 1953 「国分寺実測調査報告」『越佐研究』第5・6集合併号 新潟県人文研究会
- 斉藤 忠 1996 「国分寺跡の規模と建物」『新修国分寺の研究 第6巻 総括』吉川弘文館
- 斉藤良二郎 1988 「気候」『佐和田町史』通史編Ⅰ 佐和田町教育委員会
- 酒井清治 2002 『古代関東の須恵器と瓦』同成社
- 坂井秀弥 1988 「越後、佐渡における古代土器の生産と流通－8～10世紀を中心として－」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1989 「越後、佐渡における古代手工業生産の展開」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1990 「佐渡二見半島送り崎製塩遺跡の土器と炉状遺構」『新潟考古学談話会会報』第5号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 2006 「日本海域の気候風土と古代史の展開－その範囲・生産力・東北の開発－」『日本海域歴史体系』第2巻 清文堂
- 坂詰秀一 1982 「初期伽藍の類型認識と僧地の問題」『歴史考古学研究』Ⅱ ニューサイエンス社
- 坂詰秀一 1987 「古瓦名称論」『論争学説日本の考古学』第6巻 歴史時代 雄山閣
- 坂詰秀一 1990 「古瓦名称の統一問題」『今里幾次先生古希記念 播磨考古学論叢』今里幾次先生古希記念論集刊行会
- 佐藤俊策・羽生令吉・寺崎祐助・本間嘉晴 1989 『藤塚貝塚』真野町教育委員会
- 佐藤俊策 1990 「二見半島大浦地区の遺跡探訪調査概報」『佐渡考古歴史（会報）』第18号 佐渡考古歴史学会
- 佐原 眞 1972 「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 日本考古学会
- 椎名仙卓 1960 「石花城趾附近から発掘された壺千年前の独木舟」『相川郷土博物館々報』第1号 相川郷土博物館
- 島田貞彦 1935 『造瓦』岡書院
- 式 正英・鈴木秀夫 1964 「佐渡島の自然」『佐渡－自然・文化・社会－』平凡社
- 鈴木嘉吉・坪井清足<sup>ほか</sup> 1959 『興福寺食堂発掘調査報告』奈良国立文化財研究所
- 関 雅之・本間信昭・本間嘉晴 1975 『浜田遺跡』真野町教育委員会
- 高橋義彦<sup>ほか</sup> 1930 「佐渡国分寺址」『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』第1集 新潟県
- 高松俊雄 1994 「郡山市開成山窯跡出土の瓦－清水台遺跡出土瓦の変遷に関して－」『研究紀要』第1号 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
- 滝川邦彦 2006 『台ヶ鼻古墳』佐渡市教育委員会

- 田澤金吾 1933 「古瓦（奈良時代）」『日本考古図録大成』第16集 日東書院
- 田嶋正和 1989 「古代窯業の焼成技術－還元焼成・冷却についての実験的試案－」『北陸の考古学』Ⅱ 石川県考古学研究会
- 田中圭一・西垣晴次 1964 「古代・中世の佐渡」『佐渡－自然・社会・文化－』平凡社
- 坪井清足<sup>ほか</sup> 1975 「特集・諸国国分寺の発掘調査」『佛教芸術』第103号 毎日新聞社
- 坪井清足編 1985 『古代日本を発掘する2 飛鳥の寺と国分寺』岩波書店
- 戸根與八郎<sup>ほか</sup> 1994 『羽茂町町内遺跡確認調査報告書Ⅰ－小泊窯跡群<sup>ほか</sup>－』羽茂町教育委員会
- 戸根與八郎 1997 「佐渡」『新修国分寺の研究 第7巻 補遺』吉川弘文館
- 奈良国立博物館 1980 『特別展 国分寺』奈良国立博物館
- 奈良国立文化財研究所 1957 『飛鳥寺発掘調査報告』奈良国立文化財研究所
- 奈良国立文化財研究所 1960 『平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所
- 内藤政恒 1939 「佐渡の上代遺跡遺物を訪ねて（上）」『史蹟名勝天然記念物』第14集第5号 刀江書院
- 内藤政恒 1939 「佐渡の上代遺跡遺物を訪ねて（下）」『史蹟名勝天然記念物』第14集第6号 刀江書院
- 中川成夫・本間嘉晴<sup>ほか</sup> 1964 「考古学から見た佐渡」『佐渡－自然・社会・文化－』平凡社
- 奈良国立文化財研究所 1962 『平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査』
- 奈良国立文化財研究所 1963 『平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査』
- 奈良国立文化財研究所 1965 『平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査』
- 奈良国立文化財研究所 1973 『奈良国立文化財研究所基準資料 瓦編1 解説』
- 奈良国立文化財研究所 1975 『内裏北外郭の調査』
- 花谷 浩 1991 「鎧瓦考」『研究論集Ⅸ』奈良国立文化財研究所
- 原田芳雄編 1974 『東北古瓦図録』雄山閣
- 菱田哲郎 1986 「畿内の初期瓦生産と工人の移動」『史林』第69巻第3号 史学研究会
- 菱田哲郎 2005 「古代日本における仏教の普及」『考古学研究』第52巻第3号
- 北陸古瓦研究会編 1987 『北陸の古代寺院～その源流と古瓦～』桂書房
- 本間酒川（周敬） 1926 「小泊発見古瓦の文様に就いて」『佐渡史苑』第2号 佐渡史苑社
- 本間周敬 1950 「国分寺跡発見の思出」『佐渡』第6巻第66号 大佐渡社
- 本間嘉晴・椎名仙卓 1958 「佐渡小木半島周辺の考古学的調査」『新潟県文化財年報2 南佐渡－南佐渡学術調査報告書－』新潟県教育委員会
- 本間嘉晴<sup>ほか</sup> 1977 『下国府遺跡』真野町教育委員会
- 本間嘉晴<sup>ほか</sup> 1983 『馬場遺跡』相川町教育委員会
- 本間嘉晴<sup>ほか</sup> 1988 『佐和田町史』通史編Ⅰ 佐和田町教育委員会
- 松田與吉 1925a 「佐渡に於ける斎瓮式陶器並に天平瓦製造遺蹟」『考古学雑誌』第15巻第4号 日本考古学会
- 松田與吉 1925b 「佐渡に於ける斎瓮式陶器並に天平瓦製造遺蹟（二）」『考古学雑誌』第15巻第10号 日本考古学会
- 皆川完一・萩野正博・桑原正史 1981 『新潟県史 資料編2 原始古代文献2 文献編』新潟県
- 三輪嘉六編 1980 「国分寺」『日本の美術』第171号 至文堂
- 望月精司 2006 「日本海域の古代土器生産」『日本海域歴史体系』第2巻 清文堂
- 森 郁夫<sup>ほか</sup> 1990 『畿内と東国の瓦』京都国立博物館
- 森 郁夫 1998 『日本古代寺院造営の研究』法政大学出版局
- 諸田八百七 1928a 「佐渡の史蹟を訪ねて（一）」『史蹟名勝天然記念物』第3集第4号 刀江書院
- 諸田八百七 1928b 「佐渡の史蹟を訪ねて（二）」『史蹟名勝天然記念物』第3集第6号 刀江書院
- 諸田八百七 1928c 「佐渡国分寺跡」『史蹟名勝天然記念物』第3集第11号 刀江書院
- 安原啓示 1975 「国分寺遺跡の整備について－佐渡国分寺跡を例として－」『佛教芸術』第103号 毎日新聞社
- 山田英雄 1986 「国郡制の成立・整備」『新潟県史』通史編1 原始古代 新潟県
- 山中敏史<sup>ほか</sup> 2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ』遺構編 奈良文化財研究所
- 山中敏史<sup>ほか</sup> 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ』遺物編 奈良文化財研究所

- 山本 仁 1973 「謎の佐渡国府」『佐渡史の謎』中村書店
- 山本 仁 1995a 『佐渡国分寺』真野町教育委員会
- 山本 仁<sup>ほか</sup> 1995b 『仲畑遺跡－発掘調査の概要Ⅱ－』真野町教育委員会
- 山本 仁<sup>ほか</sup> 1995c 『経ヶ峰窯跡－発掘調査の概要Ⅲ－』真野町教育委員会
- 山本 肇 1987 「佐渡国分寺跡」『北陸の古代寺院－その源流と古瓦－』桂書房
- 山本 肇 1988 「佐渡国分寺跡出土の古瓦についての覚え書き」『新潟考古学談話会会報』第1号 新潟考古学談話会
- 山本 肇 1992 「佐渡国分寺跡周辺の地割について」『新潟考古学談話会会報』第9号 新潟考古学談話会
- 余語琢磨 2004 「古代窯業技術論－焼成実験と遺構計測値から読み解く窯焚技術と築窯プラン－」『窯跡研究会第3回シンポジウム 須恵器窯の技術と系譜 2－8世紀中頃～12世紀を中心として－』発表要旨集 窯跡研究会
- 若林篤男 2004 『佐渡国分寺跡Ⅰ』佐渡市教育委員会
- 若林篤男 2005 『佐渡国分寺跡Ⅱ』佐渡市教育委員会
- 渡邊 一 2006 『古代東国の窯業生産の研究』青木書店

## 遺構観察表

種別	No	グリッド	トレンチ	平面形	断面形	長	幅	深	備考
SX	2	M19-19.20.24.25、L19-4.5.9.10.14.15.19.20	H16 1T			1020	70		配石遺構
SK	7	L19-7.12.13	1T	円形	台形状	110	103	39	
SK	8	L19-17.22	1T	円形	未掘	95	70		
SK	9	L19-2	1T	円形	未掘	72	52		
SK	1	L18-10、L19-6	3T-b	円形	台形状	30	80	22	
SX	3	O19-14.15.19.20.24.25、N19-4.5	H16 1T			655	250		配石遺構
SK	1	O19-7.12	5T	円形	弧状	40	40	6	
SK	2	O19-12.13	5T	楕円形	弧状	85	44	5	
SK	3	O19-12	5T	方形	?	110	95	46	
SK	4	O19-12	5T	円形	台形状	38	35	10	
SK	5	O19-13	5T	円形	台形状	30	28	25	
SX	4	Q19-13.14.15.18.19.20	H16 1T、5T			450	380		
SD	1	M6-13～K6-23	7T、7T-N.S		半円状	2660	50	28	
SX	1	L9-23.24、L9-2.3.4	8T	不整形	弧状	424	170	18	
SX	1	L9-4.5	9T	不整形	台形状	160	150	10	
SX	2	M9-23.24、L9-3.4	9T	楕円形	未掘	250	70		
SK	1	L8-4	9T	楕円形	?	115	50	65	
SK	2	L9-1	9T	円形	弧状	56	53	11	
SK	3	M7-23.24、L7-3.4	9T	楕円形	弧状	80	59	24	
SK	4	M7-24、L7-4	9T	楕円形	弧状	62	48	16	
SK	5	L7-4.5	9T	楕円形	台形状	75	61	14	
SK	6	L7-5	9T	円形	未掘	33	32		
SK	7	M7-25	9T	楕円形	未掘	55	42		
SK	8	M8-21、L8-1	9T	円形	台形状	52	50	10	
SK	9	L8-1	9T	円形	未掘	31	28		
SX	1	L7-3	9T			150	140		

## 軒丸瓦観察表

図版 No.	型式	地点 グリッド	層位 番号	直径 (mm)	内区					外区			全長	厚 (mm)	重量 (g)	胎土	焼成／色調	凹面調整		凸面調整		接続 方向	備考
					中房 径	蓮子 数	弁長	弁幅	弁数	外縁								数	調整	叩	方角		
										幅	高	文様											
1	1	H16-2T K22-10	包含層	(180)	10		57	11	6	10	6		53	(1230)	1	還元／軟質			一 縄		I		
2	2	地点不明 (山本家)		175			54	12	7	15	6	(100)	37	(2290)	1	堅緻			一 縄		I		
3	3A	H17-7T N-11	56	185	10		58	12	8			(90)	35	(2130)	1	還元／硬質					I		
4	3B	H8-B区		190	12		57	15	8			365	26	4110	1	還元／硬質	30×23		一 縄		I		
5	4A	地点不明 (山本家)		(162)	26	4+1?	45	10	8	(7)	(4)	(65)	25	(770)	2	還元／硬質	(18×21)				II		
6	4B	H17-7T E-02 M5-12	Ⅱ層 表土 301	165	23		50	13	8				24	(390)	2	還元／硬質			9 縄		III	瓦当側：縄	
7	5A	H16-2T K21-10	包含層	(180)			50	10	7	12	5		46	(870)	1	還元／軟質					I		
8	7	H8-B区 Kg	Ⅱ層	(170)	20		55	23	8	5	5	圏線	22	(590)	2	還元／硬質					I		
9	8	地点不明 (山本家)		(170)	20		52	22	6	5	3	圏線 (97)	26	(990)	1	還元／硬質	(18×15)		一 縄		III		
10	9	H8-B区		160	18		53	23	8			(95)	30	(1490)	2	還元／硬質	(30×30)				II		
11	10	H8-B区		162	22		40	20	8	8	5	圏線 (310)	29	(2690)	1	還元／硬質	22×25		8 縄		II	瓦当裏・側：縄	
12	11	地点不明 (史跡整備)		170			58	20	8	10	5	(240)	15	(2630)	1	還元／硬質	16×19				III	瓦当側：叩	
13	12	H16-2T K21-2	包含層	156			50	22	8	10	6	(70)	28	(970)	1	還元／軟質					I		
14	13A	地点不明 (山本家)		153	25		55	22	6	4	2	(100)	21	(1240)	1	堅緻	15×17				III		
15	13B	H17-7T E-03	Ⅲ層 128	140	20		50	22	6				18	(550)	1	堅緻					IV		
16	14A	H16-2T K24-1	包含層	180	25		62	26	6	10	3	(126)	34	(2230)	1	堅緻	(15×12)				III		
17	14B	H13-南大門	3674	(156)			60	25	6				16	(170)	1	還元／硬質					IV		
18	14C	H13-南大門	? 904	(160)	22		57	23	6				19	(260)	1	還元／軟質	(18×21)					瓦当：布目	
19	15A	H16-2T K20-9	包含層	(166)			60	18	6	4	3		21	(260)	1	還元／硬質					III		
20	15B	H16-2T K21-6	包含層	(180)			68	22	6				24	(210)	1	酸化／軟質					III		
21	16	H17-7T E-02	Ⅱ層 63	(170)	(23)		(58)	(20)	(6)	(15)	(1)			(270)	1	酸化／軟質					III		
22	17A	H13-南大門	1550 1644	(164)			52	22	6	4	3		17	(590)	1	酸化／軟質					III		
23	17B	H16-2T K23-1 K23-2	表土 包含層	(170)			57	25	6	5	1		25	(2230)	1	還元／軟質					III		
24	18	H13-南大門	1764 2633	(175)			33	22	4	10	5	圏線	(25)	(570)	1	酸化／軟質					III		
25	20	H16-追加3T M8-3	表土					20		6	4		(32)	(180)	1	還元／軟質					III		
26	22	H8-B区		168	23		45	44	4	7	4	(240)	28	(2430)	1	還元／硬質	20×21		7 縄		II		
27	23	H17-7T E-05	Ⅳ層 139					4		9	5	(21)	(110)	2	還元／硬質					I			
28	24	H17-1T Q19-5	包含層	(180)						6	1	(23)	(170)	1	還元／硬質					III			

観 察 表

軒平瓦観察表

図版 No.	型式	地点 グリット	層位 番号	瓦当					全長	狭端幅	重量 (g)	胎土	焼成 色調	凹面調整		凸面調整			側端面調整	接 続	備考
				上弦幅	厚さ	内区厚	内区文様	周縁高						数	調整	数	叩	方向			
29	201	H8-B区		267	50	30	均整唐草	7	(200)		(2290)	1	酸化軟質	31×30		9	縄	縦	側：削・布目	I	
30	201	H13-南大門	640	(80)	(48)	(35)	均整唐草		(120)		(480)	1	還元軟質	21×19		9	縄	円弧	側：布目	I	
31	202A	H15-3T M10-16	包含層	(160)	32	20	均整唐草	5	(85)		(550)	1	酸化軟質	24×20						I	瓦当布目A
32	202B	H16-追加2T E8-3	表土		(50)	(21)	均整唐草	(11)	(100)		(530)	1	酸化硬質	20×15		8	縄	縦			II-109
33	202C	H8-B区 Kg	上層	(45)	(50)	(22)	均整唐草?	(8)	(60)		(210)	1	酸化軟質						側：削・布目		
34	203	H16-1T K19-20	包含層	(150)	(57)	(37)	偏行唐草	(9)	(220)		(1750)	2	還元硬質	28×24		9	縄	不規則	側：削	I	瓦当布目A 拓本合成 II-97
35	204	山本家			(36)	(23)	偏行唐草	(8)	(130)		(580)	1	酸化軟質	15×20		7×6	格子			II	拓本合成
36	205	H13-南大門	637 1410	(160)	58	45	偏行唐草	10	(100)		(950)	2	酸化軟質	21×16		6	縄	縦	側：削・布目	I	
37	206	地点不明 (史跡整備)		260	45	33	偏行唐草	8	(330)		(3240)	2	一部堅緻	20×19		8	縄	円弧	側：削・布目	I	瓦当布目A
38	207	H17-7T E-02	I層 150	(120)	(58)	(37)	偏行唐草	(12)	(170)		(1370)	2	還元硬質	26×25		9	縄	円弧	側：削		瓦当布目A
39	208	H17-1T SX-01	112	(110)	(30)	(20)	均整唐草	(5)	(250)		(1840)	1	酸化硬質	28×29	面取り	7	縄	円弧	側：削・布目	I	瓦当布目A
40	209A	H17-追加3T M9-3	表土	(135)	(63)	(42)	鋸歯文	12	(180)		(2070)	2	酸化硬質	27×27		9	縄	円弧	側：削・布目		瓦当布目A
41	209C	H15-2T F10-13	包含層	(115)	(60)	(36)	鋸歯文	10	(200)		(1290)	1	酸化軟質	26×24		8	縄	円弧	側：削	I	瓦当布目A
42	209B	H16-2T K20-2	包含層	(155)	(60)	(38)	鋸歯文	10	(155)		(1740)	2	凹面還元軟質	22×20		8	縄	円弧		II	瓦当布目A
43	210A	H16-1T M19-10	表土	(140)	(52)	(32)	鋸歯文	18	(115)		(1150)	2	還元硬質	24×20		11	縄	円弧	側：削		瓦当布目A II-101
44	210B	H16-2T K21-6	包含層 2	(80)	(60)	(38)	鋸歯文	(10)	(130)		(1260)	2	還元硬質	24×18		8	縄	円弧	側：削		瓦当布目A
45	214A	H16-1T K19-20	包含層	(165)	(50)	(32)	幾何学文	(10)	(215)		(1760)	1	還元硬質	18×18		6	縄	円弧	側：削		II-98
46	214B	H17-7T E-02	表土 15	(70)	(52)	(34)	幾何学文	(8)	(70)		(240)	1	酸化軟質						側：削	I	
47	212A	H8-B区		270	60	32	幾何学文	15	330	(95)	(4220)	1	酸化軟質	30×31		6	縄	円弧	側：削・布目	II	瓦当布目A
48	212A	H16-2T K21-2	表土	(220)	56	33	幾何学文	9	(160)		(2520)	1	酸化硬質	28×28		7	縄	円弧	側：削	II	瓦当布目A
49	212B	H16-1T N19-15	表土	(125)	(48)	(30)	幾何学文	(10)	(130)		(800)	1	還元硬質	18×19		8	縄	縦	側：削	I	II-102
50	212C	H16-2T K22-1	包含層	(190)	(60)	(18)	幾何学文	(25)	(110)		(1220)	1	堅緻	17×17			ナデ	横	側：削	I	瓦当布目B
51	212D	H16-1TSX01 H16-追加5T I2-21	包含層 025	260	35	10	幾何学文	15	(210)		(1600)	1	堅緻	14×12		6×6	格子			II	II-91.115
52	212E	H16-2T K21-2	包含層 2	(185)	35	17	幾何学文	7	375	(90)	(2600)	1	一部還元軟質	24×25			ナデ	瓦当：横 側：縦	端：削・布目 側：削・布目		
53	213A	H16-2T K21-6	包含層	(195)	45	33	幾何学文	10	(210)		(1600)	1	酸化軟質	19×17		7	縄	円弧	側：削	II	
54	213B	H16-2T K21-5	包含層	250	(40)	(20)	幾何学文	(12)	(160)		(1340)	1	還元硬質	22×21		6	平行		側：布目	I	瓦当：削・布目
55	213C	H17-7T N-03	表土 11		(31)	(17)	幾何学文	(7)	(90)		(360)	1	堅緻	14×13		(9×7)	格子			I	
56	213D	H17-7T E-05	111	(80)	(20)	(11)	幾何学文	(6)	(80)		(160)	1	還元軟質	16×16		(6×6)	格子		側：布目	I	
57	213E	H8-B区 Gg		270	50	23	幾何学文	6	(170)		(1780)	1	還元軟質	20×17		9	縄	縦	側：削・布目	I	
58	215A	H16-2T K21-2	包含層	(170)	42	30	幾何学文	8	365	(150)	(3820)	1	還元硬質	18×18		8	縄	円弧	側：削	II	
59	215B	H17-7T N-02	II層 188		(37)		幾何学文		(130)		(790)	1	還元硬質	30×27		8	縄	円弧		I	
60	216	H16-2T K20-1	包含層	(130)	(53)	(24)	偏行唐草	(20)	(145)		(800)	1	酸化軟質	12×12		9	縄	縦	側：削・布目		瓦当布目B
61	217	H16-2T K21-1	表土	(100)	(42)	(28)	偏行唐草	(8)	(155)		(690)	1	還元軟質	12×12		6×8	格子			II	拓本合成
62	218	H16-1T K19-20	包含層	(125)	(33)	(16)	均整唐草?	(5)	(185)		(730)	1	還元軟質	16×15			削	縦	側：削		II-96
63	219	H16-1T O19-25	包含層	(180)	43	(22)	?	(8)	(290)		(2500)	2	還元硬質	14×20					側：削・布目	I	瓦当布目B II-104
64	220	H8-B区 Hg	上層	(155)	(58)	(32)	均整唐草	(22)	(115)		(760)	1	酸化軟質	19×18		9	縄	縦	側：削・布目	I	
65	221	H16-追加1T E7-22	包含層		(35)	(15)	幾何学文	(8)	(80)		(230)	1	還元硬質	18×15						I	II-108
66	222	H12-園分寺 (南大門南西)	3966	260	34	19	幾何学文	4	(181)		(1390)	1	還元硬質	(13×10)		(6×8)	格子		側：削	I	瓦当：削 手彫?

丸瓦観察表 (1)

図版 No.	地点 グリット	層位 番号	全長 (mm)	幅 (mm)		厚 (mm)		重量 (g)	胎土	焼成 色調	凹面		凸面			側面	備考
				広	狭	広	狭				数	調整	数	叩	調整		
67	H17-7T SD01	24	387	(150)	104	26	15	(2400)	1	酸化軟質	25×21		—	縄	横ナデ		
68	H17-7T E-05	138	(357)		(99)	(19)	8	(2220)	2	還元硬質	31×35				横ナデ		
69	H8-B区	I層 1	357	190	106	20	17	2560	1	還元硬質	26×23						
70	H8-B区 HG	III層	369	(161)	(40)	18	(13)	(1650)	1	酸化軟質	25×24		6×6 6	格子 平行	縦ナデ		



## 丸瓦観察表 (2)

図版 No.	地点 グリット	層位 番号	全長 (mm)	幅 (mm)		厚 (mm)		重量 (g)	胎 土	焼成 色調	凹面		凸面			側面	備考
				広	狭	広	狭				数	調整	数	叩	調整		
71	H16-2T K21	包含層 2	349	(158)	(25)	19	(22)	(1690)	1	還元 硬質	18×20						
72	H17-8T	IV層 276	(155)	(126)	(105)	(18)	19	(710)	1	堅緻	36×30	削	9	縄			
73	H16-1T SX04	10	(143)	(87)	(104)	(16)	(23)	(650)	1	還元 硬質	(24×21)	削			削		II-126
74	地点不明 (国分寺蔵)		299	166	105	12	16	1880	1	還元 軟質	25×22				縦削	布目	玉縁一本作？
75	H16-2T K-21	包含層 9	(58)		(54)	(22)	(10)	(430)	1	還元 軟質	22×20						玉縁
76	H16-2T K-21	包含層 6	(132)		(78)	(18)	(10)	(230)	1	還元 軟質	25×21				縦削		玉縁
77	H17-7T E-2	I層 15	(162)		(130)		(22)	(540)	1	還元 軟質	17×20						玉縁
78	H17-7T N-02	表土 36	(96)		(72)		(23)	(220)	1	還元 軟質	(21×16)						玉縁

## 平瓦観察表

図版 No.	地点 グリット	層位 番号	全長 (mm)	幅 (mm)		厚 (mm)		重量 (g)	胎 土	焼成 色調	凹面調整		凸面調整				側端面調整	備考
				広	狭	広	狭				数	調整	数	叩	方向	調整		
79	H13-南大門	105	330	255	220	22	15	3410	1	凹面酸化硬質	21×20		10	縄	円弧		広端：布目 側：削	
80	H17-追加1T M19-22	II層	343	270	262	20	17	3250	2	還元 硬質	15×13		9	縄	縦		端：削 側：削・布目	
81	地点不明 (国分寺蔵)		370	(275)	270	15	21	4510	2	還元 軟質	21×18		9	縄	円弧			
82	H17-追加1T M19-22	II層	(230)	285	(190)	20	(25)	(2670)	1	還元 硬質	16×17		11	縄	円弧	離れ砂	側：削・布目	
83	H16-1T SX-01	30	(271)	(145)	(118)	22	(34)	(2440)	1	還元 硬質	25×28		8	縄	横			II-142
84	H17-7T E-02	II層 429	(155)		(210)		23	(1130)	1	酸化 軟質	30×30		7	縄	円弧		狭端：布目 側：布目	
85	H17-7T	III層 329	(180)		(75)		18	(810)	1	還元 硬質	29×27		8	縄	縦		端：削 側凹：削	
86	H16-追加5T I2-21	包含層	(305)		(200)	(23)	16	(1880)	1	還元 硬質	14×18		7×6	格子			端：削・布目 側：削	II-153
87	H17-7T N-01	178	(252)		(172)	(24)	(21)	(1580)	1	酸化 軟質	14×18		7×6	格子			狭端：布目 側：削	
88	H17-7T E-02	II層 302	(170)	(120)		(20)		(610)	1	還元 硬質	21×18		—	格子		糸切痕	側：削・布目	
89	H13-南大門	992 1469 1487	330	(150)	(40)	20	(18)	(2660)	1	還元 硬質	20×22	糸切痕	7	縄	円弧		広端：布目 側：削	
90	H13-南大門	3654	(100)		(118)		(11)	(470)	1	還元 軟質	22×27		6	平行			端：削 側：削	
91	H17-7T E-02	III層 609	(115)	(156)		(21)		(470)	1	酸化 軟質		糸切痕				糸切痕	端：削 側：削	
92	H16-1T SX-01	38	(244)	(115)	(100)	(17)	(15)	(850)	1	還元 軟質	16×17	糸切痕					端：削 側：削	II-144
93	H16-2T K21-2	包含層	(145)	(133)		(13)	(11)	(380)	2	還元 硬質		糸切痕					広端面→ヘラ ？	

## 土器観察表 (1)

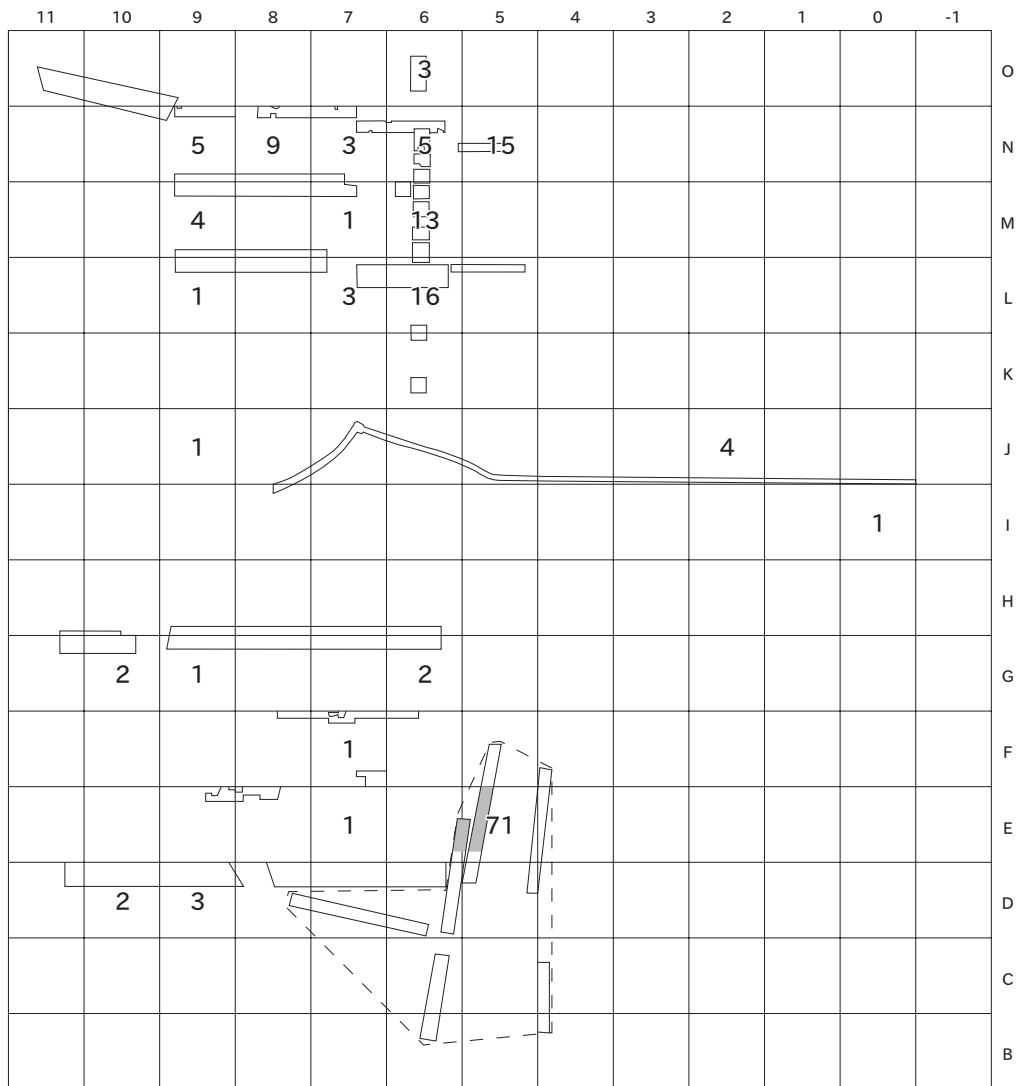
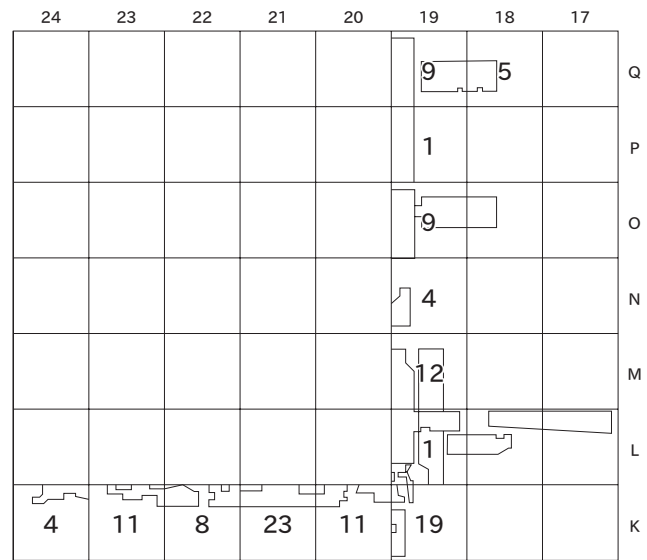
図版 No.	地点 グリット	層位 番号	種別	器種	口径	底径	器高	径高 指数	底径 指数	最大 径	切離	その他調整	回転	胎土	焼成	遺存 (口)	遺存 (底)	備考
94	H17-7T SD01	70	須恵器	坏蓋							ヘラ	ヘラケズリ		1	還元 硬質		12/12	
95	H17-6T Q18-14	III層	須恵器	坏蓋							ヘラ			1	還元 硬質		12/12	
96	H17-9T	IV層 353	須恵器	坏蓋	128									1	還元 軟質		1/12	
97	H17-6T Q19-16	表土	須恵器	坏蓋							ヘラ	ヘラケズリ		1	酸化 軟質		12/12	
98	H17-6T Q19-17	表土	須恵器	坏蓋							ヘラ			1	還元 硬質		1/12	
99	H17-6T Q19-18	III層	須恵器	坏蓋		162					ヘラ	ヘラケズリ		1	還元 硬質		1/12	
100	H17-9T	II層 121	須恵器	有台坏	140									1	還元 硬質	1/12		
101	H17-8T	IV層 336	須恵器	有台坏	114									1	還元 硬質	1/12		
102	H17-6T Q18-20	表土	須恵器	有台坏		86					ヘラ			1	還元 硬質		1/12	

観 察 表




















土器観察表 (2)












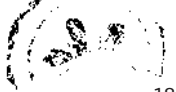






図版 No.	地点 グリット	層位 番号	種別	器種	口径	底径	器高	径高 指数	底径 指数	最大 径	切離	その他調整	回転	胎土	焼成	遺存 (口)	遺存 (底)	備考
103	H17-7T SD01	141	須恵器	有台坏		88					ヘラ			1	還元 硬質		3/12	
104	H17-7T	Ⅲ層 612	須恵器	有台坏		64					ヘラ		左	1	還元 硬質		7/12	
105	H17-6T Q19-16	表土	須恵器	有台坏		64					ヘラ			1	還元 硬質		4/12	
106	H17-5T	盛土	須恵器	無台坏	126	94	35	27.8	74.6		ヘラ			1	還元 硬質	1/12		
107	H17-9T	Ⅳ層 171	須恵器	無台坏	132	82	30	22.7	62.1		ヘラ	ヘラケズリ		1	還元 硬質	1/12		
108	H17-9T	Ⅳ層 171	須恵器	無台坏	130									1	還元 硬質	1/12		
109	H17-6T Q18-24	表土	須恵器	無台坏		94					ヘラ	ヘラケズリ		1	還元 硬質		3/12	
110	H17-7T E-02	Ⅰ層 16	須恵器	無台碗		70					ヘラ	ヘラケズリ		1	還元 硬質		4/12	
111	H17-8T	Ⅳ層 328 330 338	須恵器	無台坏		68					ヘラ		左	1	還元 硬質		2/12	
112	H17-6T Q19-17	Ⅲ層	須恵器	有台碗		80					ヘラ		左	1	還元 硬質		9/12	
113	H17-7T E-02	Ⅲ層 576	須恵器	有台碗		80					ヘラ			2	還元 硬質		8/12	
114	H17-9T	Ⅳ層 190	須恵器	有台碗		60					ヘラ			1	還元 硬質		2/12	
115	H17-6T Q18-14	表土	須恵器	皿	134									1	還元 硬質	1/12		
116	H17-7T N-10	Ⅱ層 27	須恵器	皿	130									1	還元 硬質	1/12		
117	H17-7T	Ⅲ層 192	須恵器	有台皿		60					ヘラ		左	1	還元 硬質		6/12	
118	H17-7T N-10	Ⅱ層 28	須恵器	有台坏		76								4	酸化 軟質		6/12	
119	H17-7T E-2 M5-13	表土	土師器	有台碗		82					ヘラ			4	酸化 軟質		12/12	
120	H17-8T	Ⅳ層 331	土師器	有台碗		60								4	酸化 軟質		9/12	
121	H17-9T	Ⅳ層 175	須恵器	碗?		140								1	外 過焼成		1/12	仏具?
122	H17-7T E-04	Ⅱ層 134	須恵器	多口瓶										1	還元 硬質			仏具?
123	H17-7T	Ⅲ層 618	須恵器	多口瓶						192				1	外 過焼成			仏具?
124	H17-7T N-03	Ⅱ層 80	須恵器	長頸瓶										2	還元 硬質			
125	H17-6T Q19-16	表土	須恵器	長頸瓶		118					ヘラ		左	1	還元 硬質		2/12	
126	H17-6T Q19-16	表土	須恵器	長頸瓶		154					ヘラ		左	1	過焼成		2/12	
127	H17-7T E-02	Ⅰ層 81	須恵器	甕	148									1	還元 硬質	1/12		
128	H17-7T	Ⅲ層 211	須恵器	甕								外内 格子 同心円		1	還元 硬質			
129	H17-6T Q18-15	Ⅱ層	須恵器	甕								外内 格子 平行		1	還元 硬質			
130	H17-7T SD01	53	須恵器	甕								外内 格子 放射		1	還元 硬質			
131	H17-6T Q19-16	Ⅲ層	須恵器	甕								外内 格子 放射		1	還元 硬質			
132	H17-9T	Ⅳ下層 287	須恵器	甕								外内 平行 放射		1	還元 硬質			
133	H17-6T Q18-20	表土	須恵器	甕								外内 平行 平行		1	還元 硬質			
134	H17-6T Q18-12	Ⅱ層	須恵器	甕								外内 平行 同心円		1	還元 硬質			
135	H17-9T	Ⅳ下層 245 286 292	須恵器	甕								外内 平行 放射		1	還元 硬質			
136	H17-7T E-2	Ⅲ層 523	土師器	無台皿	122	68	11	9.02	55.7					1	酸化 軟質	2/12		
137	H17-7T N-11	Ⅱ層 61	土師器	有台碗		50								4	酸化 軟質		7/12	
138	7T-SD-01	表土 1	土師器	皿?	62	30	16	25.8	48.4		回転 糸切			1	酸化 軟質	3/12		
139	H17-6T Q18-20	Ⅲ層	土師器	皿?	88	40	20	22.7	45.5		静止 糸切			1	酸化 軟質	3/12		内面煤
140	H17-7T S-01	Ⅰ層 53	土師器	皿?	70	40	26	37.1	57.1					1	酸化 軟質	3/12		内面煤
141	H17-8T	Ⅳ層 313	土師器	皿?	72	50	17	23.6	69.4		回転 糸切			1	酸化 軟質	8/12		



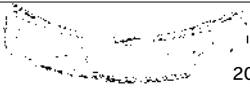
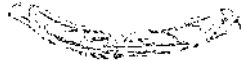


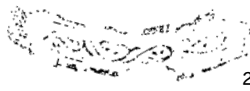

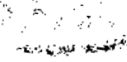
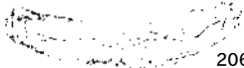
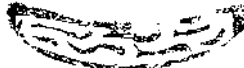


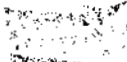




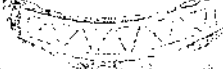
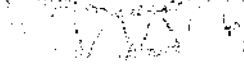
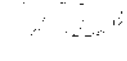

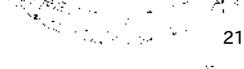
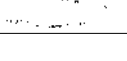


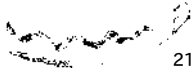
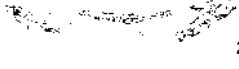
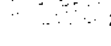

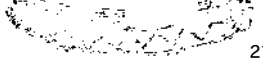

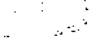
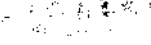
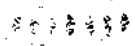


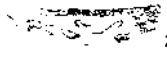

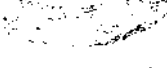
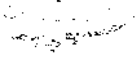
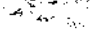
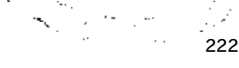
軒丸瓦一覽表

		型式 番号	金 堂 北	瑠 璃 堂 北	瑠 璃 堂 南	南 大 門	新 堂	地 点 不 明	小 計	計	%	経 ケ 峰	小 泊	備 考
	1	1	4			1		2	7	7	3.6	●		
	2	2	4	1				3	8	8	4.1	●		
	3A	3A		4	4			2	10	48	24.6			
	3B	3B	2		6	3		1	12			○		
	3	3	6	9	7	3		1	26			●		
	4A	4A						3	3	24	12.3	○		
	4B	4B		2		1		1	4					
	4	4	8	3	1	5			17					
	5A	5A	1						1	1	0.5	●		
	5B	5B							0			●		
	7	7	1	3	7			2	13	14	7.2			
	7B	7B	1						1					
	8	8	1			1		1	3	3	1.5		●	
	9	9	1	1	3			1	6	6	3.1	○		
	10	10	3		1	1			5	5	2.6			
	11	11	3	2				1	6	6	3.1		○	
	12	12		4	1				5	5	2.6			
	13A	13A	3					1	4	6	3.1		●	
	13B	13B		1		1			2				●	

	型式 番号	金 堂 北	瑠 璃 堂 北	瑠 璃 堂 南	南 大 門	新 堂	地 点 不 明	小 計	計	%	経 ケ 峰	小 泊	備 考
 14A  14B  14C  15A  15B  15C  16  16?  17A  17B  18  18  19  20  21  22  23  24	14A	1						1	3	1.5			
	14B				1			1				○	
	14C				1			1					
	15A	1		2				3	7	3.6	○	○	
	15B	2						2					
	15C						1	1					
	15		1					1					
	16		1					1	1	0.5			
	16?		1					1	1	0.5			
	17A	5		2	1	1		9	11	5.6			
	17B	1					1	2			○		
	18				1			1	1	0.5	●		
	19						1	1	1	0.5			
	20		1					1	1	0.5			
	21							0					
	22	2		1				3	3	1.5			
	23		1					1	1	0.5			
	24	1						1	1	0.5		○	
	3or4?	1						1	1	0.5			
	7or12?				2			2	2	1			
	7or 19or 12?	1						1	1	0.5			
	15or16		1					1	1	0.5			
	15or17	4	1	3				8	8	4.1			
	不明	8	4	2	3		1	18	18	9.2			
	計	65	41	40	25	1	23	195	195	99.8			

※出土点数は個体識別法による。  
 ※●は窯跡出土、○は製作技法から推定されるもの。

	型式 番号	金 堂 北	瑠 璃 室 北	瑠 璃 室 南	南 大 門	新 堂	回 廊 東	中 門 東	地 点 不 明	小 計	計	%	経 ヶ 峰	小 泊	備 考
 201	201		4	4	1					9	9	5.1	○		
 202A	202A		2	2					2	6	11	6.3		●	
 202B	202B		1	2?						3			●		
 202C	202C			1					1	2					
 203	203	3			2			1	3	9	9	5.1	○		
 204	204	4							3	7	7	4		○	
 205	205				2					2	2	1.1			
 206	206	5	2	2	1				2	12	12	6.8			
 207	207	1	1			1			1	4	4	2.3			
 208	208	1	2		1				2	6	6	3.4	○		
 209A	209A		1		1				1	3	9	5.1	●		
 209B	209B	2			1					3			●		
 209C	209C	2		1						3			○		
 210A	210A	2	7	9	1				3	22	26	14.8	○		
 210B	210B	1		1	1					3					
 210C	210C								1	1			●		
 211	211									0	0	0			
 212A	212A	1	1	3						5	22	12.5	○		
 212B	212B	3							1	4				○	
 212C	212C	3		1	1		1			6				○	
 212D	212D	4	1							5				○	[1T] + [12-21]
 212E	212E	1							1	2				○	

	型式 番号	金 堂 北	瑠 璃 堂 北	瑠 璃 堂 南	南 大 門	新 堂	回 廊 東	中 門 東	地 点 不 明	小 計	計	%	経 ヶ 峰	小 泊	備 考
 213A  213B  213C  213D  213E  214A  214B  215A  215B  215C  216  217  218  219  220  221  222	213A	3	1	1						5	16	9	○		
	213B	1							1	2				○	
	213C	1	1							2				○	
	213D		2							2				○	
	213E			5						5				○	
	214A	2		1					1	4	8	4.5			
	214B	1	3							4					
	215A	2	5	1						8	14	8	○		
	215B	1	4							5			○		
	215C									0					
	215	1								1					
	216	1	1							2	2	1.1			
	217	2		1?						3	3	1.7	●		
	218	1								1	1	0.6			
	219	1								1	1	0.6			
	220		1	7					1	9	9	5.1		○	
	221	1		2						3	3	1.7			
	222								1	1	1	0.6		○	
	不明			1						1	1	0.6			
計		51	40	42	12	1	1	1	25	176	176	100			